



四季想「暮江吟」…………… 1

成長めざすツナ缶市場

—環境激変に対応・新規ユーザー獲得へ—

…………… 三浦正幹 2

ツナ缶市場は、直近10年では魚価騰落、コストアップ、値上げ、為替の大幅な変動等、市場環境は目まぐるしく変化している。今後も先行き不透明感が増すなかで主要ブランド各社による収益確保と成長へ向けた施策の展開が予想される。本稿では、国内生産統計、輸出入統計、海外輸出統計等の関連データを基に市場を概観する。

企業最前線～経営者に聞く～⑤①

…………… 株式会社にしき食品 11

昭和50年代につくだ煮製造からレトルト食品製造へ転換。一からのスタートながら業務用レトルトの取引を拡大するも、市場環境の悪化から小売り用PBレトルトに舵を切った。PB品の開発に資するため自社ブランド品を先行展開し、プチ贅沢で心豊かなレトルトのある暮らしを実現していく。

商品規格書の統一による業務効率化について

—「PITS標準項目」「PITS標準フォーム」について—

…………… 商品情報授受標準化会議 13

缶詰見聞・体感録 第68号

イギリスも缶詰大国だった

…………… 黒川勇人 18

ニュースファイル(2016年7月) …… 21

※放射路

食品・流通 …… 29

鮭鱒工船だった信濃丸の数奇な一生

～いま日本の海洋力を問う～(全11回)

第8回 炎暑の台湾航路(1910～1929年)

…………… 宇佐美昇三 31

1930年代に北洋で鮭鱒缶詰を製造した工船の代表、信濃丸、その前身は北米航路の華やかな定期船だった。日露戦争では仮装巡洋艦、晩年は弓揚船と役割を変えた。本稿は、数奇な船歴を経た「信濃丸」のあとを遡り、日本の海洋力の将来を考える。

ニュース&トピックス…………… 42

缶詰、びん詰、レトルト食品生産数量

(2016年1～3月期1次集計分速報)

…………… 47

2016年1～3月期の缶詰、びん詰生産は50.8万トン(7,979万箱、実箱)で、前年対比106.6%となっている。内訳は、丸缶48.9万トン、7,693万箱(飲料を除いた丸缶では4.1万トン、546万箱)、大缶0.8万トン、39万箱、びん詰1.2万トン、247万箱となっている。レトルト食品の生産は、6.7万トン(973万箱)で前年対比91.7%となっている。

こちらケベックNo.244

…………… リシャール・ミッシェル、浜垣有加里 72

缶詰、びん詰、レトルト食品全国販売データ

2016年7月品目別商品別金額シェア

…………… 77

平成27年産くり缶詰・びん詰在庫調査結果

…………… 95

***缶詰びん詰レトルト食品統計特集号申し込みについて… 68**

缶詰短信…………… 24	業界消息…………… 71,88
魚肉ソーセージコーナー…………… 35	日本介護食品協議会コーナー… 87
缶詰輸入情報…………… 36	主任技術者コーナー…………… 91
缶詰輸出情報…………… 38	研究所だより…………… 92
缶詰関連統計情報…………… 40	協会日誌…………… 93
海外ジャーナル…………… 69	編集後記…………… 96

表紙カット (株)日本出版制作センター
レイアウト 澄田 静